



皮膚疾患

食物アレルギーおよび食物不耐性



食物アレルギーおよび食物不耐性は食物有害反応の種類です。毒性などの他の種類の食物有害反応とは異なり、「正常な」食品に対する異常反応の例です。

科学的文献に報告されている食物アレルギーおよび食物不耐性の有病率について、少なくともその一部は、患者集団および診断方法の違いによって異なります。¹ 痒みのために専門医院や大学病院に来院した犬では、9~40%の有病率が報告されています。¹ 専門医院や大学で皮膚疾患と診断された犬は最大24%が食物アレルギーや不耐症と診断されたのに対し、一般診療所で皮膚疾患と診断された犬ではわずか0.4%でした。^{1,2} 痒みのために大学病院を受診した猫の最大21%が食物アレルギーまたは不耐性と診断されたのに対し、大学病院を受診した猫全体の0.2%しか同診断を受けませんでした。¹

ペットが普通の食べ物で予期せぬ副作用を起こした場合、食物アレルギーと考えがちですが、食物不耐症である可能性があります。しかし、病因は異なるものの、食物アレルギーと食物不耐性は臨床症状が似ており、同じまたは類似の方法で診断し栄養管理されます。³

主なメッセージ

- 食物アレルギーは、アレルゲンと呼ばれる食物中の成分に対する免疫介在性の反応です。アレルゲンはタンパク質です。アレルギーは通常、原因となるアレルゲンに繰り返しさらされた後に発症します。⁴
 - 最も一般的な食物アレルギーは、犬では牛肉、乳製品、鶏肉から、猫では牛肉、魚、乳製品からです。^{4,5}
 - ペットの食物アレルギーで最も多いのは、ペットの食事に最も多く含まれるタンパク質です。ペットの場合、他のタンパク源よりも食事のタンパク質との接触頻度が高いため、アレルギーを発症する機会が多くなります。³
- 食物不耐性は特定の免疫要因があるとは認識されていません。初めて特定の食物を食べた時にかかわらず、いつでも発生する可能性があります。⁴
 - 代謝性食物不耐症は、消化酵素の欠乏から生じることがあります。例えば、小腸のラクターゼという酵素のレベルが低いことによる乳糖不耐症などです。⁶ 離乳後の子犬や子猫のラクターゼ値は低下しますが⁷、乳糖不耐症はまれです。
 - 特発性食物不耐症とは、その名のとおり、多くのペットに耐性がある食物や食材に対して、原因不明の有害反応がある場合のことを言います。⁶

(次のページに続く)

キーマッセージ (続き)

- 食物アレルギーや不耐性は、通常、ペットの皮膚や胃腸の症状を引き起こします。⁸
 - 最も一般的な皮膚症状は非季節性の痒みで、犬では全身または耳、足、腹部、顔面に、猫ではしばしば顔面、頭部、頸部に限局して発生します。⁹ その後、掻くことによって、紅斑、皮膚感染症の再発、脱毛を引き起こすことがあります。犬は唯一の臨床症状である外耳炎を呈することがあり¹、猫は粟粒性皮膚炎を呈することがあります。^{8,9}
 - アレルギー性皮膚疾患のペットでは、食物アレルギーはアトピー（花粉などの環境アレルゲン）やノミアレルギー性皮膚炎よりも少ないです。⁴ 一般診療所で皮膚症状を呈するペットのうち、アトピーやノミアレルギー性皮膚炎は食物アレルギーよりも犬で 20 倍、猫で 4 倍多く診断されています。²
 - 消化器症状としては、下痢、嘔吐、排便の頻度上昇などがあります（犬および猫の食物反応性腸症の項を参照してください）。⁸
 - 皮膚症状と胃腸症状の両方が見られるペットは、アトピーよりも食物過敏症の可能性が高いです。^{10,11}
- 食物アレルギーや不耐性を診断するためのゴールドスタンダードは、除去食試験です。^{4,8}
- 食物アレルギーまたは不耐性が確認されたペットの長期栄養管理には、同定されたアレルゲンまたは食材を避けるか、除去試験で使用した加水分解されたアミノ酸ベースのタンパク質、または完全にバランスのとれた新規タンパク質食を継続する必要があります。⁴

参考文献

1. Olivry, T., & Mueller, R. S. (2017). Critically appraised topic on adverse food reactions of companion animals (3): Prevalence of cutaneous adverse food reactions in dogs and cats. *BMC Veterinary Research*, 13(1), 51. doi: 10.1186/s12917-017-0973-z
2. Hill, P. B., Lo, A., Eden, C. A. N., Huntley, S., Morey, V., Ramsey, S., Richardson, C., Smith, D. J., Sutton, C., Taylor, M. D., Thorpe, E., Tidmarsh, R., & Williams, V. (2006). Survey of the prevalence, diagnosis and treatment of dermatological conditions in small animals in general practice. *Veterinary Record*, 158(16), 533–539. doi: 10.1136/vr.158.16.533
3. Mandigers, P., & German, A. J. (2010). Dietary hypersensitivity in cats and dogs. *Tijdschrift voor Diergeneeskunde*, 135(19), 706–710.
4. Verlinden, A., Hesta, A., Millet, S., & Janssens, G. P. J. (2006). Food allergy in dogs and cats: A review. *Critical Reviews in Food Science and Nutrition*, 46, 259–273. doi:10.1080/10408390591001117
5. Mueller, R. S., Olivry, T., & Prélud, P. (2016). Critically appraised topic on adverse food reactions of companion animals (2): Common food allergen sources in dogs and cats. *BMC Veterinary Research*, 12, 9. doi: 10.1186/s12917-016-0633-8
6. Gaschen, F. P., & Merchant, S. R. (2011). Adverse food reactions in dogs and cats. *Veterinary Clinics of North America: Small Animal Practice*, 41(2), 361–379. doi:10.1016/j.cvsm.2011.02.005
7. Craig, J. M. (2019). Food intolerance in dogs and cats. *Journal of Small Animal Practice*, 60, 77–85. doi: 10.1111/jsap.12959
8. Mueller, R. S., & Unterer, S. (2018). Adverse food reactions: Pathogenesis, clinical signs, diagnosis and alternatives to elimination diets. *The Veterinary Journal*, 236, 89–95. doi: 10.1016/j.tvjl.2018.04.014
9. Olivry, T., & Mueller, R. S. (2019). Critically appraised topic on adverse food reactions of companion animals (7): Signalment and cutaneous manifestations of dogs and cats with adverse food reactions. *BMC Veterinary Research*, 15(1), 140. doi: 10.1186/s12917-019-1880-2
10. Hobi, S., Linek, M., Marignac, G., Olivry, T., Beco, L., Nett, C., Fontaine, J., Roosje, P., Bergvall, K., Belova, S., Koebrick, S., Pin, D., Kovalik, M., Meury, S., Wilhelm, S. & Favrot, C. (2011). Clinical characteristics and causes of pruritus in cats: A multicentre study on feline hypersensitivity-associated dermatoses. *Veterinary Dermatology*, 22(5), 406–413. doi: 10.1111/j.1365-3164.2011.00962.x
11. Picco, F., Zini, E., Nett, C., Naegeli, C., Bigler, B., Rüfenacht, S., Roosje, P., Ricklin Gutzwiller, M. E., Wilhelm, S., Pfister, J., Meng, E., & Favrot, C., (2008). A prospective study on canine atopic dermatitis and food-induced allergic dermatitis in Switzerland. *Veterinary Dermatology*, 19(3), 150–155. doi: 10.1111/j.1365-3164.2008.00669.x

Purina Institute は、ペットがより長く、より健康的に生きるための、科学に基づく顧客に寄り添った情報を提供することで、ペットの健康に関する議論の最前線に栄養を位置付けることを目指しています。